

様式第1-1 (特許、実用新案、意匠及び商標 (冒認対策商標以外) の申請用)

令和5年5月11日

公益財団法人ふくい産業支援センター
理事長 東村 健治 様

代表など個人名義の案件は、申請できません。(個人事業主除く)

申請者 住所 福井県〇〇市〇〇町〇-〇-〇
名称 株式会社〇△□〇
代表取締役社長 〇〇 〇〇

令和5年度中小企業等海外出願・侵害対策支援事業費補助金
(中小企業等外国出願支援事業)

間接補助金交付申請書

中小企業等海外出願・侵害対策支援事業費補助金 (中小企業等外国出願支援事業) 実施要領 (20190314特第3号。以下「実施要領」という。) 第6条第1項の規定に基づき、上記間接補助金の交付について下記のとおり申請します。

なお、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律 (昭和30年法律第179号)、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律施行令 (昭和30年政令第255号)、中小企業等海外出願・侵害対策支援事業費補助金 (中小企業等外国出願支援事業) 交付要綱 (20190314特第1号) 及び実施要領の定めるところに従うことを承知の上申請します。

記

1. 申請者種別 (いずれかに〇)

<input checked="" type="radio"/>	①法人
<input type="radio"/>	②個人事業者
<input type="radio"/>	③事業協同組合等
<input type="radio"/>	④商工会、商工会議所
<input type="radio"/>	⑤NPO法人

2. 過去における本補助金の支援実績 (いずれかに〇)

<input type="radio"/>	①実績なし
<input checked="" type="radio"/>	②実績あり
②の場合、確認事項	
<input checked="" type="radio"/>	査定状況報告書を提出している
<input checked="" type="radio"/>	フォローアップ調査を提出している

令和4年度のみ支援企業は、フォローアップ調査対象外のため
②実績ありの余白に「(令和4年度採択)」と記載のうえ
フォローアップ調査の欄は「-」を記入

※実施要領第4条第1項第4号及び第23条に定める事項 (補助事業完了後5年間の状況調査 (フォローアップ調査、ヒアリング等)、採択案件の査定状況報告書の提出)

3. 申請者の概要

資本金	従業員数	法人番号	業種
〇〇〇万円	〇人	1234567890123	〇〇業

※個人事業主の場合、法人番号欄の記入は不要

個人事業主は記載不要

13桁の番号。
※登記簿に記録される
12桁の会社法人等番号では
ありません。

主たる業種を記入

内容を確認、必要事項を記入のうえ、チェックを入れる

【確認事項（□にチェック及び記入してください）】

- ☒ 大企業は実質的に経営に参画していない（みなし大企業に該当しない）ことに相違ない。出資者と出資比率を記載してください。（株主名簿の提出で代替することも可）

出資者の名称	出資比率
特許 太郎	45%
株式会社××	20%
株式会社△△	10%
特許 一郎	10%
ほか 5名	15%

※みなし大企業の定義は実施要領第4条第1項第6号（ア）～（エ）参照。

単独で2分の1以上、又は
複数で3分の2以上の所有がわかるように記入すること。
小口の株主が複数いる場合はまとめて記入。

- ☒ 確定している（申告済みの）直近過去3年分の各年又は各事業年度の課税所得の年平均額が1.5億円を超えていない。

※実施要領第4条第1項第6号（オ）参照。

（過去3年分の課税所得額を記載してください。）

	前年	2年前	3年前
課税所得額	4.7億円	6億円	5.2億円

※上記への該当の有無の確認のため、必要がある場合には、納税証明書等の提出を求めることがあります。

損益計算書の「税引き前当期純利益」ではなく、
法人税申告書の「所得金額又は欠損金額」を記入
※「所得金額又は欠損金額」によって、
○千万円、○百万円等、適宜単位を変えて記入してください。
※創業間もない等、課税所得を算出していない場合は
「-」を記入してください

4. 申請案件種別（いずれかに○）

（外国出願）

<input type="radio"/>	①特許出願
<input type="checkbox"/>	②実用新案登録出願
<input type="checkbox"/>	③意匠登録出願
<input type="checkbox"/>	④商標登録出願

（参考：国内出願）

<input type="radio"/>	①特許出願
<input type="checkbox"/>	②実用新案登録出願
<input type="checkbox"/>	③意匠登録出願
<input type="checkbox"/>	④商標登録出願

5. 外国特許庁への出願の方法（該当するものに○（複数可））

<input type="checkbox"/>	①パリ条約等に基づき、外国特許庁への出願を行う方法
<input checked="" type="radio"/>	②特許協力条約に基づき、外国特許庁への出願を行う方法（国内出願を基礎として行ったPCT国際出願を同国の国内段階に移行する方法）
<input type="checkbox"/>	③特許協力条約に基づき、外国特許庁への出願を行う方法（PCT国際出願を同国の国内段階に移行する方法）
<input type="checkbox"/>	④ハーグ協定に基づき、外国特許庁への出願を行う方法
<input type="checkbox"/>	⑤マドリッド協定議定書に基づき、外国特許庁への出願を行う方法

出願書類等と同じ記載とすること。

6. 外国特許庁への出願の基礎となる国内出願の内容

日本国出願番号	特願 2000-000000	出願日	2000年0月0日
PCT国際出願番号 ※PCT国際出願の場合のみ	PCT/JP2000/000000	出願日	2000年0月0日
ハーグ協定に基づく 国際登録番号		国際登録日	
出願人	〇〇株式会社		
登録番号	第〇〇〇〇〇〇号	登録日	2000年0月0日
権利者	〇〇株式会社		
発明・商標等の名称	〇〇製造装置及び製造方法		
発明・商標等の内容	〇〇装置とは〇〇を〇〇処理するために用いられるものであって、A要素とB要素とC要素を備えている。さらに本発明に係る〇〇装置ではD1要素を備えている。これにより〇〇処理にかかる時間を短縮できる。その装置に関する製造方法。		

少なくとも要約書程度の
内容は記入すること。

登録済みの場合は記入

- ※「5.」で②に○を付した場合には、基礎とした国内出願とPCT国際出願の両方をそれぞれ明記してください。
- ※「発明・商標等の名称」及び「発明・商標等の内容」の欄は、実用新案登録出願の場合には「考案の名称」及び「考案の内容」を、意匠登録出願の場合には「意匠に係る物品」及び「意匠の内容」を、商標登録出願の場合には「商標登録を受けようとする商標」及び「商品及び役務の区分並びに指定商品又は指定役務」を指すものとし、それぞれ明記してください。
- ※外国特許庁への出願の基礎となる国内出願が既に登録を受けている場合には、「登録番号」及び「登録日」も合わせて明記し、「出願人」と「権利者」が異なる場合は、それぞれ明記してください。
- ※PCT国際出願の場合は、PCT国際出願番号も明記してください。
- ※日本を指定締約国としたハーグ協定に基づく国際登録を外国特許庁への出願の基礎となる国内出願とする場合には、「ハーグ協定に基づく国際登録番号」、「国際登録日」を明記してください。
- ※「5.」で④に○を付した場合であって、ハーグ協定に基づく国際出願時に日本国を指定締約国として含む場合(外国特許庁への出願の基礎となる先の国内出願がない場合)には、「6.」の記入は不要です。
- ※基礎となる国内出願が複数ある場合には、それぞれ明記してください。

7. 外国特許庁への共同出願の有無

有	<input type="checkbox"/>	無	<input checked="" type="checkbox"/>
---	--------------------------	---	-------------------------------------

(有の場合)

共同出願人がいる場合は「有」に○を記入のうえ、
(有の場合)に内訳等を記入。
補助率は「権利の持ち分」か「費用負担割合」のいずれか低い方になります。

共同出願人	権利の持ち分	費用負担割合

8. 外国特許庁への出願に関する出願計画の内容

発明・商標等の名称		<div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> <p>「6. 外国特許庁への出願の基礎となる国内出願の内容」と同じ内容を記入。 補正や分割出願等を予定している場合は必ず下欄に記入すること。</p> </div>
発明・商標等の内容		
出願人		
発明者等		
出願（予定）国	米国・欧州・中国	
出願スケジュール	米国・欧州 2021年12月初旬 中国 2021年12月下旬	
<div style="border: 2px solid red; padding: 2px;"> いずれかを必ずチェック </div>		
審査請求スケジュール （審査請求制度があるもののみ）	<input checked="" type="checkbox"/> 出願と同時（同日）（注1）に行う <input type="checkbox"/> 移行国の期限内に行う <input type="checkbox"/> 日本の審査を待ち、審査請求を行う <input type="checkbox"/> その他（ ）	
基礎となる国内出願又は権利の内容に変更を加えて外国出願する場合、変更の内容と必要性を記入		<div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> <p>採択後、申請内容と異なる出願は認められません。 基礎出願の権利範囲の一部を変更して国内移行する場合は、 必ず変更内容(補正案や変更案)をこの欄に記入すること。</p> </div>

- ※「出願人」及び「発明者等」の欄は全ての出願人や全ての発明者等を明記してください。
- ※「基礎となる国内出願又は権利の内容に変更を加えて外国出願する場合」とは、以下のような場合を想定しています。
- ・国内出願の内容を補正して外国特許庁へ出願する場合
 - ・商標の外国特許庁への直接出願で日本における国内出願又は権利の字体等を変更して出願する場合
 - ・種別を変更して外国出願する場合（実用新案権を特許権に変更して出願）
- ※「発明・商標等の名称」、「発明・商標等の内容」及び「発明者等」の欄は、実用新案登録出願の場合には「考案の名称」、「考案の内容」及び「考案者」を、意匠登録出願の場合には「意匠に係る物品」、「意匠の内容」及び「意匠の創作をした者」を指すものとし、商標登録出願の場合には「商標登録を受けようとする商標」、「商品及び役務の区分並びに指定商品又は指定役務」を指し、発明者等の欄の記入は不要です。
- ※「5.」で③に○を付した場合であって、特許協力条約に基づき、外国特許庁への出願を行う方法（PCT国際出願を同国の国内段階に移行する方法）の場合には、PCT国際出願時に日本国を指定締約国として含まなければこの補助金の対象となりません。PCT国際出願時に日本国を指定締約国として含める場合には、「出願（予定）国」の欄に、必ず「日本」を含めて記入してください。
- ※「5.」で④に○を付した場合であって、外国特許庁への出願の基礎となる先の国内出願がない場合には、ハーグ協定に基づく国際出願時に日本国を指定締約国として含まなければこの補助金の対象となりません。ハーグ協定に基づく国際出願時に日本国を指定締約国として含める場合には、「出願（予定）国」の欄に、必ず「日本」を含めて記入してください。
- （注1）同日に審査請求を行う場合は、審査請求に要する費用も助成対象となります。

9. 間接補助金交付申請額

1,161,000 円

(内訳)

(単位：円)

国名／合計	外国特許庁への出願手数料	現地代理人費用	国内代理人費用	翻訳費用	国別計／合計
米国	87,000	250,000	165,000	440,000	942,000
欧州	380,000	250,000	165,000	0	795,000
中国	56,500	180,000	110,000	320,000	666,500
外国出願経費合計	523,500	680,000	440,000	760,000	2,403,500
助成対象経費	523,500	680,000	400,000	720,000	2,323,500
持ち分に応じた対象経費					2,323,500
間接補助金申請額					1,161,000

※国別の外国出願経費の内訳、内訳項目ごとの助成対象経費及び間接補助金申請額を記載。

見積書の見積金額(税込み)を記入すること。

**助成対象経費の1/2の金額(千円未満切捨て)を記入
ただし、下記上限額を超える場合は、上限額を記入**
・特許 150万円 ・意匠 60万円

外国出願経費から補助対象外経費を引いた
補助対象経費のみを記入すること。

おもな補助対象外経費

- ・消費税
- ・特許印紙代
- ・申請書作成にかかる代理人費用・成功報酬
- ・先行登録調査費用
- ・出願と同時に進行予定のない経費

※そのほか不明な経費についてはお問合せください。

共同出願人がいる場合は

**補助率は「権利の持ち分」か「費用負担割合」の
いずれか低い方の割合を乗じた金額になります。**

※上記記載例で、権利の持ち分 50%、費用負担割合 100%の場合
 助成対象経費 2,323,500
 持ち分に応じた対象経費 1,161,750 (助成対象経費の 50%)
 間接補助金申請額 580,000 (助成対象経費の 1/2
 (千円未満切捨て))

10. 外国特許庁への出願の動機・目的

- ・権利取得について、以下①～②の項目についてなるべく具体的に記入してください
- ・内容が出願予定国ごとに異なる場合は、国ごとに記入してください

① 権利取得の動機

② 事業の目的 (模倣品対策、技術保護だけではなく出願予定国において事業を行う目的)

<文例> 下記は上記①～②に対応して記載した 1 例です。必ずしも同様に記載する必要はありません。

弊社は〇〇処理する〇〇装置を日本で製造し、全世界で販売している。

① 一般に〇〇処理には長時間を要することが課題であるが、今回 D1 要素を付加することで、〇〇処理の効率化を実現した。この発明に係る特許を取得することにより模倣品の製造・販売を防止し、弊社の〇〇装置の市場占有率を大幅に拡大できると考えている。

② 事業の目的

◆中国 特許取得による技術的優位性をアピールし、同国における販路拡大を図ることを目的とする。特に・・・

◆米国 2020 年度中には日本から現地生産法人への製造移管を予定しており、同国での模倣品製造を防止し、販売機会ロスの撲滅・削減を図ることを目的とする。また・・・

11. 出願（予定）国における事業展開計画（出願（予定）国を選んだ理由も含む）

- ・事業展開計画について以下①～⑤の項目について、なるべく具体的に記入してください。
- ・内容が出願予定国ごとに異なる場合は、国ごとに記入してください。

- ① 市場ニーズ・市場規模
- ② 事業面の強み（販売・製造・調達・人材・人脈・設備・品質・コスト等）
- ③ 海外展開形態（製品輸出・現地法人での生産・現地企業によるライセンス生産等）
- ④ 事業展開計画（推進体制、推進スケジュールを含む） 現在どの程度まで計画が進んでいるか進捗がわかるように記入してください。
- ⑤ 予想される売上高・利益額・現地での販売実績等、事業展開計画を裏付ける資料がある場合は別途添付してください。
 - ・ガントチャート等事業展開計画の詳細を示す資料がある場合は別途添付可能です。
 - ・投資機関等第三者の事業評価書がある場合は、その写しを別途添付可能です。
 - ・ジェットロが実施する海外展開支援を受けている場合は、その旨を記入してください。

<文例> 下記は上記①～⑤に対応して記載した 1 例です。必ずしも同様に記載する必要はありません。

■中国

- ① 同国には当装置を必要とする〇〇関連企業が幾つかあり、約〇億円という大きな市場である
- ② 同国の〇〇社とは 10 年前から代理店契約を結んでおり、いくつかの現地顧客を有している。また、顧客からの品質評価も非常に高い。
- ③ 2019 年〇月～〇月にかけて営業担当が既存顧客 A 社及び新規顧客候補 B 社を訪問し、商談を行う予定である。また同年〇月に〇〇で行われる世界最大規模の〇〇展への出展に向けて、社長直轄のプロジェクトチームを編成して準備をすすめている。
- ④ 出展後は代理店〇〇社と連携しながらフォローを行い、新規顧客の獲得へと繋げる予定。
- ⑤ 弊社の同国でのシェアは現在約〇%であるが、当該特許に基づく新機能付加の効果により市場 優位性が増し、〇%位まで拡大可能と考えている。売上高は〇〇億円、営業利益は〇〇億円を見込んでいる。また、・・・

■米国

- ① 同国は当装置のニーズがここ 5 年くらいの間に高まってきた。
- ②③ 同国労働力を活用し、2021 年には〇〇装置の現地生産を計画している。これにより低コスト生産体制が構築でき、品質面だけでなく価格面でも競合他社に対して有利に展開できると考える。
- ④ 2018 年春に現地法人設立の概略計画及びその検証は完了した。現在、生産担当の〇〇専務を 責任者として、実施計画を作成中である。2021 年〇月までの許認可取得・工場建設着手により、2022 年度中の生産開始に間に合わせる予定である。
- ⑤ 現地生産法人での売上高は〇〇億円、営業利益は〇〇億円を見込んでいる。また、・・・

■欧州

- ①.....

12. 出願する技術、創作等を活かした製品等の概要

- ① 製品の用途・使用方法等を記入してください。
- ② 出願する技術・意匠等が製品のどの部分に活かされているかを記入してください。
- ③ 製品のパンフレット等がある場合は、別途添付してください。

<文例>

本製品は、〇〇の技術において、〇〇する際に使用される。利便性向上の観点から、〇〇処理が速やかに行われることが好ましく、本発明の〇〇装置によれば、〇〇部分に D1 要素を付加することで利便性の向上が図られる。 また・・・さらに・・・

13. 出願の新規性、進歩性、創作性等（先行・類似調査の状況を含む。）

■調査条件 <必須項目>

①調査データベース ② 調査種類 ③ 調査対象範囲 ④ 検索式⑤ 調査実施者（調査経年数又は調査担当件数）を記入してください。

■調査結果・国際調査報告書(ISR)が既にお持ちの場合には同報告書の写しを添付してください。

- ・調査会社による調査報告書がある場合には同報告書の写しを添付してください。
- ・物件として先行技術を示す公報等を添付する場合、該当する場所（段落等）にマーカ ー等で印をつけるか、該当箇所を記入してください。

先行技術調査の内容を記入。調査結果を別途資料で添付する場合は、その旨記入

先行技術調査/先行登録調査には、少なくとも以下項目を記入

○調査条件

- ・調査データベース:特許情報プラットフォーム(J-platpat)等
- ・調査種類:公開特許公報、特許公報、公開実用新案公報、実用新案公報 等
- ・調査対象範囲:19〇〇年〇〇〇月〇〇日~20〇〇年〇月〇日 等
- ・検索式:キーワード(〇〇装置など)、IPC 分類、調査件数(スクリーニング件数)等
- ・調査実施者:弁理士 〇〇〇〇(調査経験12年)、製造開発部〇〇〇〇(調査経験20件/年)等

○調査結果

- ・先行技術を示す文献の該当箇所を記入のうえ、それに対する新規性、進歩性を記入
- ・先行技術を示す公報等を添付する場合、該当する場所(段落等)にマーカ ー等で印をつけること

上記先行技術調査は、下記の書類でも代用可

- 既に行った、調査会社による調査報告書の写し(調査期間を必ず記載)
- 国際調査報告書(ISR)や国内出願の拒絶理由通知書又は特許査定通知等の写し(ただし、補正をする場合はその補正内容を明記すること)

以下についても、可能な範囲でご記入ください。

■調査結果の中で近い、また、類似と思われる特許・実用新案公報等の概要について段落番号や図番を明示して記載してください。なお、調査結果によっては、一般的な従来 技術を示

すものとなっても構いません。

■新規性等について、先行技術、先行意匠との相違点を詳しく記載してください。

<記載例>

文献1の要旨：

文献1には、・・・「A要素」、「B要素」及び「C要素」からなる○○装置が記載されている（段落[0012]～[0021]、図1及び図2参照）。また、文献1には、・・・

文献2の要旨：

文献2には、「D2要素」を有する××装置が記載されている（段落[0024]及び図4参照）。また、文献2には、・・・

文献3の要旨：

文献3には・・・「D2'要素」を有する××装置が記載されている（段落[0040]及び図7参照）。また、文献3には、・・・

相違点：

文献1には、本発明の前提構成が記載されているが、「D1要素」が記載されていない点が相違する。文献2及び文献3には、それぞれ「D2要素」、「D2'要素」が記載されているが、本発明には「D1要素」が記載されている点が相違する。「D1要素」と「D2要素」、「D2'要素」とでは機能は共通するが、○○部分の形状が異なっている。また、・・・さらに、・・・

補正：

ISRにおいて進歩性を有していないと指摘された、請求項4～5については、移行時に削除する予定

14. 過去における出願実績及び権利取得状況（国内及び外国）

<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本 特願2019-012345 出願日：2019年3月3日 特許第〇〇〇〇〇〇 登録日：2017年3月3日 商標登録第〇〇〇〇〇〇 登録日：2017年2月1日 ・ 米国 特許 〇〇〇〇〇〇〇〇 出願日：2018年7月1日 ・ 欧州 特許 〇〇〇〇〇〇〇〇 出願日：2019年8月1日 <p>他〇〇件（国内〇件、海外〇件）</p>	<p>権利を多数登録している場合は、主要な権利を5件程度記入のうえ、「他〇件」等と総数を記入。</p>
---	---

15. 外国特許庁への出願を依頼する国内弁理士等（選任代理人）

※選任代理人に依頼しない場合にはその旨及び選任代理人に依頼する場合と同等の書類（間接補助金交付の必要書類）を自らの責任で補助事業者あてに提出できる旨を記入。

（選任代理人による本事業への協力に関する承諾状況は別紙のとおり）

16. 外国特許庁への出願に関する他の公的機関（独立行政法人日本貿易振興機構含む）の助成制度の利用予定の有無（いずれかに〇）

有	<input checked="" type="radio"/>	無	<input type="checkbox"/>
---	----------------------------------	---	--------------------------

（有の場合のその内容）

補助事業者名 （自治体等）	独立行政法人日本貿易振興機構
対象となる案件 の出願番号	特願 20〇〇-〇〇〇〇〇〇
出願国	米国・欧州
助成制度の内容	中小企業等外国出願支援事業 1 / 2 補助、上限：150万円 申請中

ジェトロ((独)日本貿易振興機構)へ本補助金の申請をしている場合又は、交付決定された場合は必ず記入してください。
※ジェトロへ申請中、又は交付決定された案件と同一案件は申請できません。(国が違えば可)

内容を確認のうえ、全ての項目にチェックを入れる

17. 確認事項（□にチェック）

- 当補助金の事業において、外国出願に関する代理人契約、出願準備、出願手続きなどすべての作業は採択（交付）決定後に行い、事前着手を行わないことを確認した。
- 実施要領第4条第1項第4号及び第23条第2項に定める事項（補助事業完了後5年間の状況調査（フォローアップ調査、ヒアリング等））、実施要領第23条第1項に定める事項（採択案件の査定状況報告書の提出）について確認した。
- 実施要領第4条第1項第5号に定める事項（審査請求が必要なものについては、必ず審査請求を行うこと、中間応答の必要が生じたものについては、応答すること）について確認した。
- 実施要領第13条第1項に定める事項（様式第3による計画変更手続きを行わずに実施した、本補助金に申請・採択された内容と異なる出願（出願の変更）は認められない点）について確認した。
- 実施要領第22条第2項に定める事項（間接補助事業者の名称、所在地、交付の決定を受けた出願種別、法人番号、採択日、交付決定日、交付決定金額、確定金額の公表）について確認した。
 （※上記以外の事業計画等の申請内容については公表されることはありません。）

- ☒実施要領第23条第1項に定める事項（放棄又は取下げ等を行わないこと）を確認した。
- ☒事業完了後、やむを得ない事情により、採択案件を万が一、放棄又は取下げを行わなければならない場合には、必ず事前に補助事業者へ連絡し、承認を受けることを了承する。
- ☒添付書類の「登記簿謄本等の写し」、「住民票の写し」は申請時点における最新情報であることを確認した。

18. 申請者の担当及び連絡先

担当者（職名及び氏名）			
電話番号		メールアドレス	

代表番号ではなく、担当部署の直通番号を記入。
担当者の携帯番号の並記も可。

会社の事業概要

申請者名 株式会社〇△□〇

事業開始	法人 昭和〇〇年〇 月〇 日	個人	年	月	日
事業内容	主な製品名・取引先も記入すること。				
取引金融機関	〇〇銀行 〇〇支店				
業績等 (注)		2020年〇〇月期		2019年〇〇月期	
	売上高	〇〇〇, 〇〇〇千円		〇〇〇, 〇〇〇千円	
	経常利益	〇〇, 〇〇〇千円		〇〇, 〇〇〇千円	
	当期利益	〇〇, 〇〇〇千円		〇〇, 〇〇〇千円	
	売上高に対する研究開発比率	〇〇%		〇〇%	
	総資産	〇〇〇, 〇〇〇千円		〇〇〇, 〇〇〇千円	
	自己資本	〇〇〇, 〇〇〇千円		〇〇〇, 〇〇〇千円	
	総借入	〇〇, 〇〇〇千円		〇〇, 〇〇〇千円	
年間売上額	主要売上品目	国内	輸出 (輸出先)		計
	///, ///千円	///, ///千円 (米国)		///, ///, ///千円
	///, ///千円	///, ///千円 (欧州)		///, ///, ///千円
	合計	///, ///千円	///, /// 千円 (8カ国)		///, ///, ///千円
直近3か年の課税所得額		前年	2年前	3年前	
		4.7億円	6億円	5.2億円	
特許等出願・登録実績	これまでにおける産業財産権(特許、実用新案、意匠、商標)の出願・登録実績を記入すること。 (国内・国外とも。出願番号、出願名称、出願日、出願国名、登録日、登録番号を記入) 国内 出願番号..... 出願名称++++++++ 出願日〇〇〇〇年〇月〇日 登録日〇〇〇〇年〇月〇日 登録番号..... 国外 出願番号..... 出願名称++++++++ 出願日〇〇〇〇年〇月〇日 出願国名 米国、欧州 登録日〇〇〇〇年〇月〇日 登録番号.....				

(注) 金額は、百円の位を四捨五入。率は、小数第2位を四捨五入。

別紙 2

外国特許庁への出願に要する経費に関する資金計画

1 支出

(単位:円)

国名/合計	外国特許庁への 出願手数料	現地代理人 費用	国内代理人 費用	翻訳費用	国別計/合計
米国	100,000	200,000	330,000	220,000	850,000
欧州	100,000	200,000	330,000	220,000	850,000
外国出願経費合計	200,000	400,000	660,000	440,000	1,700,000
助成対象経費	200,000	400,000	600,000	400,000	1,600,000
持ち分に応じた対象 経費					1,600,000
間接補助金申請額					800,000

※消費税込の金額で作成すること。(但し、助成対象経費は消費税を除いた金額とすること。)

※間接補助金申請額は助成対象経費を2分の1後、1000円未満は切り捨てること。

2 収入

(単位:円)

区分	金額	資金の調達先等
自己資金	900,000	
借入金	0	
補助金	800,000	(公財)ふくい産業支援センター
その他	0	
計	1,700,000	

3 補助金が受けられなかった場合、または申請額より減額して交付された場合の対応策